



診療内容

●進行した肺がんは手術ができません

肺がんはすべてのがんの中で最も死亡数が多く、年間7万人以上の方が亡くなっています。早期の肺がんは症状が出にくく、血痰、呼吸困難などの症状が出てからでは、肺がんと診断された時には進行していて、手術ができないことも少なくありません。

肺がん死亡数を減少させるためには早期発見が重要です。禁煙をし、検診をきちんと受け、精密検査が必要となったら必ず受診しましょう。

●検診で「肺がん疑い」と言われました

びっくりしたと思います。検診は見落としを少なくするため、少しでも疑いがある方に精密検査を勧めています。異常を指摘されてもほとんどの方は肺がんではありません。当センターではすみやかに検査を行い、方針決定をし、受診された方の不安を解消するよう心がけています。過剰に心配せず、しかし必ず受診してください。

●異常影の精密検査／受診したその日にCT検査をして結果を説明します

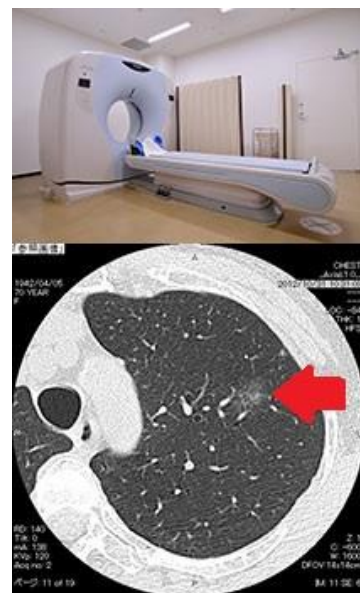
胸部エックス線検査で異常を指摘されたら受診してください。受診された当日にCT検査を施行し、専門医がその結果を説明します。CT検査にて肺がんが疑われる場合や、気管支鏡検査等さらなる検査が必要な場合はすみやかに専門病院へ紹介します。しかしCT検査をしても、ほとんどの方は心配ない陰影であり1回の診療で終了となるか、小さな陰影のため経過観察の方針となります。年の単位で経過観察が必要になることもあります。当センターで責任をもって対応します。

●痰の細胞診／痰から肺がんが見つかることがあります

肺がん検診では長期間の喫煙歴があり肺がんのリスクが高い方に対し、痰の中にがん細胞を認めないか検査をしています。がん細胞を認めれば、治療が必要になりますが、「中等度異型(ちゅうとうどいけい)」といって、正常細胞かあるいはがん細胞か判定できないことがあります。その場合は、痰の検査、胸部エックス線検査、CT検査等で経過観察を行います。



■エックス線写真/症状が出る前に検診で見つけましょう



■CT検査/経過観察が必要になることもあります

●結核・非結核性抗酸菌症／結核は誰にも感染する可能性があります

胸部エックス線検査にて異常影を指摘されたときは、結核などの感染症であることもあります。当センターでは、CT検査に加え、喀痰検査、インターフェロンガンマ遊離試験（結核に感染しているかどうかを調べる血液検査）にて結核かどうかの診断をします。肺結核の確定診断がついた場合や、さらなる検査が必要な場合は専門病院へ紹介します。結核に感染しているが発病していないと判断されれば（潜在性結核感染症）当センターで治療あるいは経過観察をします。

また、肺結核の方に接触してしまった方が、感染していないか、発病していないかどうかの検査（接触者検診）も行っています。

結核と同類の非結核性抗酸菌症も増加しています。非結核性抗酸菌症は他の人に感染しないので診断がついても治療しない場合もありますが、症状、画像所見（エックス線検査、CT検査）等にて、治療の必要性を考えながら経過観察をします。



■インターフェロンガンマ遊離試験/
血液検査で結核感染を調べます

●慢性閉塞性肺疾患（COPD）／咳、痰、息切れの症状はありませんか？

慢性閉塞性肺疾患（COPD）は長期間の喫煙により、肺の機能が低下し、咳、痰、息切れ等の症状が出る病気であり、呼吸機能検査等で診断します。市町村の検診で、問診にて慢性閉塞性肺疾患が疑われる方に対し、呼吸機能検査、CT検査を施行し確定診断、治療の必要性を判断します。



■呼吸機能検査/息切れしませんか？

●禁煙支援／禁煙をあきらめない

禁煙がやさしくないのは当然です。意志が弱いからではありません。一定の要件を満たせば、健康保険にて禁煙治療ができます。12週間5回の外来にて飲み薬を処方し禁煙支援を行っています。自分で禁煙しようと思っても、なかなかできない方はあきらめずに受診してください。



■検査

- ・単純CT検査（造影CT検査は行っていません）
- ・呼吸機能検査
- ・喀痰細胞診検査
- ・喀痰抗酸菌検査／一般細菌検査
- ・結核感染診断検査：インターフェロンガンマ遊離試験（QFT検査・T-SPOT検査）